



金子 さおり さん



酪農家／チーズ職人／Mt.Fuji Craft! Farm 代表

(富士河口湖町)

今回は、富士河口湖町で牧場経営を行いながら、牧場の牛の乳を使った乳製品の製造・販売を行っている「Mt.Fuji Craft! Farm」代表 金子さおりさんにお話をうかがいました。

富士河口湖町で Mt.Fuji Craft! Farm をはじめたきっかけを教えてください。

金子：仕事をしながら酪農をやりたいと転職を考え、千葉や栃木的那須高原など場所を探していました。酪農をするにあたり、牧場での研修が必要で、私は牛がベルトコンベヤで流れるような機械的で大規模な農場ではなく、頭数が少なく、触れあいながらできる小規模な農場を探していました。しかし、小規模となると家族経営の農場がほとんどで、研修の受け入れ先になれないものばかりでした。この時期、英会話を習っていたのですが、会話のトピックとして転職中で農業をやりたい、と話をしたところ、英会話教室の先生の友人の外国人の一人が山梨で農業をしているから、話を聞いてみれば？と紹介してくれました。話をすると、良い意味でいい加減で「牛いっぱいいるよ」「仕事あるよ」って言ってくれました。転職して農業をやることを決めてからは「大変だからやめろ」などのマイナスなことばかり言われてきました。なので、いい加減でも背中を押してくれたこの山梨でやってみようと、移り住んできました。相談をしたら、農協を紹介してくれ、農協にいろいろと相談しながら、研修先を見つけることができました。山梨で働きながら、研修を受けつつ、牧場を開く場所を探していたら、この場所が見つかった、という感じです。移住してからは半年で仕事が見つかるなど、移住する前に比べ、すんなりここまで来ることができました。本当にいい縁に恵まれました。

金子さんが考える畜産や酪農の面白さとはなんですか？

金子：自分がやったことがダイレクトに返ってくるところが面白さだと思います。自分で時間も仕事の量やペースもコントロールできるのが大きく、大変なことも多くあるけれど、一生懸命やったことにはしっかり成果が表



れて、後ろに伸ばせば後々自分の首を絞めることになる。そうした全ての決定権を自分が持っていて、自分のコンディションと相談しながらできるのが大きいです。また、正しいことをすれば、牛もそれに応えてくれるので、試行錯誤してやった結果が、そのまま見て取れるのは一番の面白さだと思います。

フランス北部ノルマンディー地方の牧場で住み込みで働いていたそうですが、その際に感じた、日本との違いや戸惑いなどについてお聞かせください。

金子：大学では畜産科で学んでいましたが、日本の農業・畜産の経験がゼロだったんです。フランスでの体験を日本でもやろうと、日本に戻って研修を受けてみたら、フランスでのやり方と全然違い、逆にカルチャーショックを受けました。私の農業のベースがフランスで学んだことだったので、日本の農業・酪農については疑問を感じました。乳牛から機械的に乳を搾り取るだけ、という現状を見たとき言葉は悪いですが、私には虐待のように感じてしまいました。そこから、フランスで体験した酪農の再現をするため、独立をして今に至ります。フランスにいた時は牛よりヤギがメインでしたが、ヤギが主体で人間はそれに合わせるのが普通でした。ヤギたちの生活の邪魔をせず、好きに過ごしてもらおう中で乳を搾り、チー